

中国空軍が雲南省の防空を強化

漢和防務評論 20151201 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国空軍は、戦略的に重要な位置を占める雲南省の防空に力を入れ始めています。特に国産の中距離ミサイル HQ-12 の陣地を重要地区に増設しています。その理由は、インド空軍、ベトナム空軍及び最近関係悪化が想定されるミャンマー空軍からの攻撃に対処するためです。

KDR 平可夫香港特電：

中国空軍は、2014 年以降、特に 2015 年に入ってから雲南省に多くの HQ-12 型地对空ミサイル（註：中距離 SAM で、ホークに相当）基地を建設している。これらの基地は新設された基地である。その他の省のいくつかの HQ-12 基地は、従来 HQ-2 が配備されていた基地であり、HQ-12 用に改修されたものだ。

KDR は、雲南駅、曲靖、尋甸にそれぞれ 1 個大隊の HQ-12 型 SAM 陣地を発見した。各大隊には 6 発のミサイルが配備されている。

HQ-12 がこの地区に配備された理由を分析することは極めて有意義である。なお広西省の南寧には新たな HQ-12 陣地は発見できない。

1. 要地防空の必要性

曲靖、及び雲南駅の陣地付近に軍用飛行場がある。中国空軍は、伝統的に重要な飛行場に防空ミサイル陣地を建設する。雲南駅の軍用飛行場は、冷戦時代から J-6 (MIG-19) が配備されていた。国道にも近く、遠く望見することができる。冷戦終了後、長期間戦闘機が不在であったが、2014 年から飛行場の修理、拡大が行われた。今後は、重要な空軍基地になるのは明らかだ。

2. 上述の雲南駅、曲靖、尋甸の 3 基地は、安寧に布陣する HQ-12 部隊とともに、昆明を防衛するため、北部、西部および東部方面の防空障壁を構成している。

3. 四川省の第一線の防空体系を形成するため、それぞれ雲南東部及び西部から、ベトナム空軍及びインド空軍による三峡、重慶、成都攻撃のルートを遮断する。インド及びベトナム空軍は、すでに強大な攻防兼備の空軍戦力を保有している。SU-30 シリーズ多用途戦闘機は、輕易に四川省に進入できる。インド空軍は、CHABUA、TEZPUR の両基地に SU-30MKI を展開している。昆明からの距離は、それぞれ 825 KM、1024 KM であり、SU-30MKI の作戦範囲に完全に含まれる。インドは、今年 SU-30MKI に搭載する空中発射型 BRAHMOS 多用途ミサイルの試験を終了する。地对地型 BRAHMOS の射程は 290 KM である。空中発射型の射程はどの程度であろうか？KDR 記者が BRAHMOS ミサイルの設計者或いは同公司の首脳に問い合わせる度に、相手は笑って、当ててみる、と言う。KDR は 400 KM 以上はあっていると思っている。また SU-30MKI は、強力な妨害ポッドを携行する。インド空軍

は、攻勢防空の必要性から妨害機の随伴を重視してきた。1999 年のカシミール紛争では、第一段階でインド空軍の MIG-21 戦闘機 1 機が、中国製肩打ち式 QW-1 ミサイルを装備するパキスタン陸軍によって撃墜された。第二段階では、インド空軍は、妨害機を随伴した MIRAGE2000-H を出動させ、完全に制空権を奪取した。中印が、一旦、チベット地区、雲貴高原で空中戦を行う場合は、1999 年のカシミール紛争の経験に注目すべきである。第一、高原での空戦は戦闘機の性能を制約する。エンジンが突然停止する可能性があるから。パキスタンは、QW-1 で MIG-27 を撃墜したと称しているが、インドは、この MIG-27 が突然エンジン停止したため高度が低下し墜落したのだと述べている。またヒマラヤの白雪の反射が強烈で、パイロットは目標発見が困難になる。インド空軍は、チベットの地上目標を攻撃する場合、同様の困難に遭遇する可能性がある。しかし、SU-30MKI が昆明、成都を攻撃する場合は、このような問題は存在しない。

したがって雲南省の防空を強化する際の基本構想は、江西省南昌に S-300 を 2 個大隊配備した意図と同じである。すなわちこの場合は、台湾空軍の F-16 が内陸奥深く進入するルートを第二線で封じるためである。

三峡は、戦略的に中国の柔らかい下腹になった。距離は、ハノイから僅か 1100 KM である。インドの CHABUA 空軍基地からは 1600 KM であり、作戦範囲から 100 KM 越えている。インドは、すでに射程 1000 乃至 1500 KM の NIRBHAI 亜音速巡航ミサイルの試射に成功している。命中精度は相当高く、核弾頭搭載能力がある。同ミサイルのため、強化型目標を攻撃する浸透型弾頭を含む 24 種類の弾頭が開発された。現在 SU-30MKI への整合を図っている。

三峡は、台北から 1100 KM ある。この HQ-12 ミサイル陣地建設工事は、すでに中国全体の防空体制の牽引役となり、雲南省、江西省から布陣が始まった。戦時、周辺国家にとって最も効果的な戦略攻撃目標は、第一に三峡ダムである。B-2 戦略爆撃機は一度に 80 発の GPS 誘導爆弾で三峡ダムを攻撃することが出来る。

4. 雲南省の防空を強化することは、ミャンマー情勢の悪化とも関連がある。HQ-12 部隊は、2015 年臨滄地区の滄源に機動展開を行った。ここは中国少数民族 WA 族自治県の阿 WA 山区とミャンマーの境界地区である。ミャンマー空軍の最先進型戦闘機は MIG-29 である。現段階の国境における作戦で、ミャンマー空軍は、何度も中国国境内の目標を攻撃し誤爆もした。中緬関係は急激に冷却し、今後両国関係悪化の可能性は否定できない。したがって HQ-12 の雲南省配備は、当然予想されたことである。

以上